ものは壊れますが、人の心は

子どもはものをこわすものです。物心つかない幼い子はいわずもがな。半分大人に足を突っ込んでいる中学生もものを壊します。「中学生にもなれば」と思いがちですが、中学生の壊し方は、扱い方がわからない幼い子どものそれとは違い、思春期ならではの未熟な判断力が原因になる独特の壊し方です。

先日、南舎二階の男女トイレの排水溝が詰まり、汚物が流れなくなりました。急きょ使用禁止として、専門業者に見てもらいました。同階の全てのトイレの汚物が流れなくなったので、排水溝の大元で詰まっていたようです。

詰まりは一日で解消しましたが、びっくりしたのはその修繕費。水回りの修繕は高くつくと聞いていましたが、本当にそうなのだと実感しました。福沢諭吉が片手では納まらず、両手だと余る修繕費が必要となりました。汚物が流れるところを確かめるわけですので、それぐらいが普通なのかもしれませんね。

今回は、汚物以外のいろいろなものが詰まっていたことが原因だったようです。だれかが何かを流したからというのではなく、「これくらい（流しても）いいだろう」「ゴミ箱に捨てるのが面倒だな」というような気もちの積み重ねが、結局今回の詰まりにつながったようでした。

「トイレットペーパー（水に溶けるシートも含む）以外のものは流さない」ということを知っていてもおかしくない年頃なのに、ついついトイレに流してしまう未熟さ……大切なのはその未熟さを自覚することだと私は思います。

すばらしい生徒たちがいました。言いにくいことだろうに、一部の生徒が、「今回の詰まりの原因は、私たちが〇〇を流してしまったからかもしれません」と名乗り出てきたのです。その勇気と誠実さに、私は大きな感動を覚えました。確かに、詰まりの修繕費は高くつきましたが、そんなことを打ち消してくれる生徒たちのすばらしさがそこにはあったのです。

この生徒たちは、自分たちの未熟な判断力に気付いたのですから、ここから成長していくと私は思います。今回のことが忘れ去られない限り、この生徒たちは同じ失敗を二度と繰り返すことはないでしょう。

学校の予算には「修繕費」が計上されています。ものはいつかは壊れるという前提で組み込まれていますが、だからといって手荒く扱ってよいということではありません。未熟さを受け止めながら、成長を期待する修繕費です。ものは壊れますが、人の心は壊してはいけないと私は思います。でも、やはりものは壊れない方がいいなぁ。（九月二十三日　記）